

研究課題名	悪性高熱症の診断・治療および安全な麻酔に関する研究
研究責任者名	堤 保夫
研究期間	2008年10月28日(実施許可日)~2027年3月31日
対象者	悪性高熱症の素因診断を行った後、余った筋肉で本研究を行うことに同意を得られる方
意義・目的	悪性高熱症は全身麻酔薬で起こる遺伝性の病気です。吸入麻酔薬や一部の筋弛緩薬で起こることが分かっていますが、稀な疾患であり、まだ解明されていない部分も多いです。また、悪性高熱症をおこす可能性を調べる素因診断は、現在は筋肉を採取して行っていますが、より侵襲の少ない診断方法を開発する必要があります。今回、素因診断後の余った筋肉を使用して、さまざまな薬剤に対する反応を調べることで、悪性高熱症の患者さんにも安全に使用できる薬剤を明らかにすることと、新しい素因診断法を開発することを目的にこの研究を計画しました。
方法	本研究は、素因診断後の余った筋肉を使用して行います。 筋肉にさまざまな薬剤を投与して、細胞内のカルシウムの濃度の変化を観察します。その反応を比較することで、その薬剤が悪性高熱症をおこしうる可能性を判断します。(この研究のために新たに筋肉を採取することはありません)
研究に用いる試料・情報の種類	試料：余剰筋肉 試料・情報の管理責任者：広島大学 教授 堤 保夫
研究組織	共同研究機関 広島県立総合リハビリテーションセンター 麻酔科 安田 季道 既存試料・情報の提供機関 順天堂大学大学院 村山 尚 東京科学大学 影近 弘之 キッコーマン総合病院 市原 靖子 りんくう総合医療センター 神移 佳 情報は広島大学に集め、広島大学でデータの解析を行います。
外部への試料・情報の提供	ありません。
個人情報の保護について	研究に試料・情報が用いられることについて、研究の対象となる方もしくはその代諾者の方にご了承いただけない場合は、研究対象としませんので下記の連絡先までお申し出ください。お申し出による不利益が生じることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されている場合には、提供していただいた情報や試料に基づくデータを結果から取り除くことが出来ない場合があります。なお、公表される結果には、特定の個人が識別できる情報は含まれません。

また、本研究に関するご質問等あれば下記連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報等の保護や研究の独創性確保に支障がない範囲内で、研究計画書および関連書類を閲覧することができますので、お申し出ください。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

Tel : 082-257-5267

広島大学病院麻酔科 寄附講座助教 大月 幸子

研究機関：広島大学